

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

4

2025/11/7

編集・発行：回転寿司ユニオン

企業内組合員たるマネージャーが回転寿司ユニオン組合員に不当労働行為 「あそこは会社の組合ではない」と発言 「会社の組合」とは御用組合のこと？

おととい付の前号で、「黄色組合を利用した不当労働行為に要警戒！」と警鐘を鳴らしたところだが、案の定、さっそく疑わしい事例が発生した。

東京都内の店舗で、エリアマネージャー（AM；数店舗を統括する役職。当然企業内組合の組合員）が回転寿司ユニオンの組合員に「あそこは会社の組合ではない」「なんでそんなところに（加入して、問題の解決を）頼んでいるんですか」などと発言したことがわかった。

「会社の組合」とは何か？形式的には、回転寿司ユニオンは産業単一で組織していて、「はま寿司従業員組合会」は企業別に組織しているという違いはあるが、そもそも労働組合というのは、労組法で「労働者が主体となって自主的に労働条件の維持・改善や経済的地位の向上を目的として組織する団体」と定義されているのだから、まっとうな労働組合であれば「企業別組合」にはなり得ても、「会社の組合」なるものにはなり得ない。

にもかかわらず、「回転寿司ユニオンは会社の組合ではない。はま寿司従業員組合会が会社の組合」などという発想や発言はどうして出てくるのだろうか。それは簡単で、職制たる企業内組合員（おそらく何らかの組合役職に就いている？）自身が、「この組合は会社お抱えの労働組合だ」という自覚があるのだろう。すなわち、自ら御用組合であることを暴露したも同然ということである。

世の中にはさまざまな御用組合が存在しており、たたかう労働組合に「あそこは〇〇党だ」とか「あの組合に入ったら出世できない」などのレッテル貼りやデマを投げつける御用組合は数多くあるが、**「あそこは会社の組合（≒御用組合）ではない！われわれこそが正統なる会社の組合（≒御用組合）なのだ！」**と宣言する「労働組合」は、世界広しといえども、「はま寿司従業員組合会」のほかにはあるまい。

「なぜそんなところに」？ 企業内組合がまったく役に立たないからだ！

そもそもこの発言を受けた組合員は、なぜ「はま寿司従業員組合会」を脱退して回転寿司ユニオンに加入したのか？それは、本来締結されるべき更新雇用契約書を締結されず、無契約状態で就労させられていたうえ、あるときからはシフトにも入れられなくなったからだ。もちろん、更新雇用契約書の締結を怠ったり、シフトカットを行っていた店長も、企業内組合の組合員である。

そうであるならば、企業内組合などに相談できるわけもなく、クルーが主人公の労働組合である回転寿司ユニオンに頼るのは自然であろう。当然、回転寿司ユニオンから申入れたところ、ただちに更新雇用契約書の締結の意思が示され、シフトも回復されたのである。

ではどうして企業内組合が、このような声かけをしてくるのだろうか。それはどうも、企業内組合が「労働問題をかかえたクルーが、よくわからずに（あるいは企業内組合と誤認して）回転寿司ユニオンに相談している」と考えているようなのだ。そうであるとするならば、回転寿司ユニオンのホームページに「はま寿司ではたらくクルーのみなさんへ」というよびかけを掲載したあとに突如企業内組合ホームページができたことも合点がいく。

ところが、回転寿司ユニオンに相談を寄せ、そして移籍加入してくるクルーは、よくわからずに来ているのではない。「企業内組合では問題を解決できない」「店長から受けているハラスメントやシフトカットを、どうして店長が加入する企業内組合に相談できようか」という明確な意思をもって回転寿司ユニオンに相談するのだ。もちろん加入の際にも、「規約により二重加盟はできないため、回転寿司ユニオンへの加入の際にははま寿司従業員組合会は脱退となる」ことは口頭、加入案内書両方で明確に説明している。

そもそも、繰り返し指摘していることだが、どうして「労働組合と経営は『両輪』、もっといえば『同軸』」とか「労使協調路線から更に一步踏み込んだ、労使協力路線を念頭に据えて取り組み」（本坊興一「ゼンショー労連」会長）などのたまう「労働組合」に、クルーが安心して相談できると思っているのだろうか。

企業内組合が今やるべきは、自分たちこそが「会社の組合」（≒御用組合）だということを誇るのではなく、これまでの労使「協力」路線とやらを撤回し、現場ではたらくクルーの切実なる要求に真剣に向き合うことだろう。